

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:平成 31年 3月 7日

公表:平成 31年 3月 15日

事業所名 放課後等デイサービスみよしMoMo

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動の目的別にスペースを別けて使用している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		最低人員配置基準に1人以上児童指導員等を加配している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	階段には手すりを設置している。	事業所が2階にあるため、バリアフリー化は難しい状況にある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に評価・改善を行っている。	事業計画や個別支援計画等の計画作成に当たっては、職員の意見を聞く等している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的にアンケートを行っている。	毎年、定期的にアンケートを実施して、保護者等の意見等を把握しており、改善できるものについては速やかに対応している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	職員の自己評価を行い、改善につなげている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修を行っている。	外部研修の機会を設けるよう努力する。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		中間評価と終了時評価を行い、個別支援計画を見直している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化したアセスメントツールを使用している。	標準化しているアセスメントツールの見直しをする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		複数の職員の合意で立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		基本的には毎日異なる活動を行っている。	固定化している活動プログラムの充実を図る。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日と休日、長期休暇は活動プログラムを別けて行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別の障害特性に合わせて作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に打合せをしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に打合せをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日誌や個人記録担当を決めて行っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		中間評価及び終了時評価の中で判断している。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	インクルーシブ教育の充実を図る。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との情報共有を図るため、保育所等訪問支援を行っている。	保護者を通して学校から情報を得ようとしているが、保育所等訪問支援の充実を図る。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者から情報を得ようとしている。	保護者からの情報や主治医からの情報を得るように努める。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		適切に情報共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	事例がないが、必要に応じて行っていく。	必要に応じて情報提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		子ども発達センター等と連携し、助言や研修を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		毎日一定数の学童クラブの子どもとの交流がある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	参加するように努める。	参加するように努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時等で伝えている。	保護者には、利用時の様子を詳細に記録して配布している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	定期的に保護者説明会を開催している。	保護者への個別支援を充実する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		新規の契約時や変更のあった時に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		適宜相談に乗っている。	モニタリング時において丁寧に対応する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		定期的に保護者説明会を開催している。	父母の会は開催していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情処理要領により対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月行事予定を配布しており、その結果を「MoMoだより」にて発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報使用同意書により、承諾を得ることとしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		情報伝達のための配慮をしている。	子どもへの配慮は絵や写真を活用し、保護者へは「連絡帳」を活用している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	独自での行事は行っていない。	幼稚園と連携した行事の開催について検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員には周知しているが、保護者には周知していない。	保護者への周知に努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月定期的に行なっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に行なっている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		基本的に身体拘束は行っていない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時に確認するようにしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を共有するようにしている。	